

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2024.12.No328

12月号

## 目次

第46回(一社)北海道建築士会 全道大会(日高大会)を終えて	1
特集 第46回 全道大会 「日高大会」	2
女性建築士集い報告	6
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

## 第46回(一社)北海道建築士会全道大会(日高大会)を終えて 「日高大会で目指したものは？」

事務局長兼指揮者 高橋 幸二 (日高支部)



まずもって、ご参加の皆様にお礼を申し上げます。又、懇親会では、来賓席もなく、参加者の自由な空間をも制約してしまいなながらも、多くの方より楽しめたとの感想を頂いたことにもお礼申し上げます。そして、全道大会内容を一から見直し、本部長常任理事兼総務企画委員長の立場からも、日高支部での運営会議全般を指揮させてもらい、10数年来の大会を変えたいの思いに最後まで、ついてきてくれた支部仲間へ最大の感謝を致します。

大会テーマ『馬産地 日高路で語る我々の未来』で、『語る』を最大の命題として、分科会を中止し、ワールドカフェスタイルで、多くの方が参加できる方式を取りました。これまでの分科会だと、参加者の人数制限があり、参加できない方は、地域の見学などで時間調整をしてきたと思いますが、残念ながら地元には、見学出来る施設も環境も少ないからです。なにより、実質的な参加を促したかったからです。お客様の大会参加ではなく、参加者が作る大会を目指しました。

一方式典は、従来通り整然と厳かに、執り行えるよう図りました。諸先輩や、活躍された仲間をこれまで通り、称賛し称えたいと。それが、今後も士会活動を支えてくれる原動力になると感じているからです。日高支部では、長らく表彰を辞退する流れがありました。地元開催をきっかけに、初の表彰受賞も出来ました。これも、大会を主管した成果の一つと思っています。また、『元気ブース』では、全道で活躍する仲間の紹介と宣伝、更には実際に参加してもらい体験してもらうことで、一般参加者に建築士会をアピールできる場を提供したいと思いました。これは、地元の宣伝不足で、一般町民の参加が少なく、反省点に成りました。大会開催期間も振り返ると、これまでは二日開催で、青年は初日から力を出し切り、本大会では、少々お疲れ感があり、本大会辞退も見られました。更に分科会ですが、内容

がパターン化して、マンネリ感を感じていました。青年も女性も負担を感じていたのも事実でしょう。広報においても『号外』を発行していたが、作成側は、大会に参加できない状態です。時代は、紙から電子に変わり、それを発信している会が、変わっていない。懇親会も、パターン化されて、ほぼ、鳴り物での歓迎です。今でも和太鼓の違いが判らない私です。折角、全道から仲間が集まり、様々な組織や地域で活躍の来賓の方たちも、集合しての語らい。全く、もったいないと、感じていました。(先日の臨時総会では、来賓客が多いと指摘されていました)それならば、その来賓者とも、語らえたらと思い、変えてみました。

さて、本来なら全道大会後の御礼文でしたが、現実を直視しながら、大会運営を振り返り、今後の在り方を考え、かかわり方などに一石を投げられたら幸いです。なにごとにもメリットあるから付き合うのか、楽しいから参加するのか、すべて受け身で成り立つのか、批判は簡単です。疑問(発想)のないのは、もっと残念です。知らない人に、どう伝えるのか、人も資金も枯渇してきて、知恵も汗もかかかないで、無くし減少していくのか。継続は力ですが、変化も、知恵も、汗もない継続は、地獄でしょうね。楽しくないと思います。一人一人の力も微力です。

批判で得るものはあるのでしょうか。【出来る人が、出来るときに、出来ることをする。出来ないときは、出来る人を探し、応援する】まさしく、今大会に臨むにあたっての言葉でした。言葉をくれた、基調講演の木本氏に、お礼を申し上げ、懇親会にて、お詫びそびれましたので、この場を借りてお詫び申し上げます。今後の大会運営の変化点にと、とらえてほしいですが、これがパターン化しないことも、ある意味願っています。地域の特性に仲間の団結、強力な発想にリーダーを育て、応援して下さい。若い力を組織で、育ててください。未来の為に。



ひだカフェ①



ひだカフェ②



ひだカフェ③



永年表彰受賞の様子



ひだカフェ報告 (森 日高支部理事)



応急危険度判定・机上訓練 折紙建築ブース



ひだカフェ④



ひだカフェ⑤



ひだカフェ⑥



ひだカフェ⑦



ひだカフェ⑧



ひだカフェ⑨



ひだカフェ⑩



ひだカフェ⑪



ひだカフェ⑫

PHOTO GALLERY



基調講演 (木本 晃氏)



基調講演 (会場の様子)



表彰者記念撮影



余興 (「静内高校書道部」)



余興 (「静内高校書道部」による作品)



実行委員長挨拶 (山下 日高支部長)



開会宣言 (菊池 日高支部副支部長)



網領朗読 (亀田 日高支部青年委員長)



実行委員長挨拶 (山下 日高支部長)



次期開催地PR (中標津支部)



懇親会締めめの挨拶 (高野顧問)

**第47回 全道大会(中標津大会)**  
 開催日: 2025. 9. 27

**第46回 全道大会(日高大会)**  
 開催日: 2024. 9. 28

# ひだカフェで語られたミライ



理事 森 勝利 (日高支部)

ひだカフェは、「ワールド・カフェ」という対話手法をとり入れたイベントで、4つのテーマを設け、テーマごとに5テーブル、計20テーブル、参加者約140名で意見交換を行いました。

1つ目のテーマは『どうする？全道大会』。道内4ブロックの持ち回りで開催しており、概ね土曜日の午後1時を目途に参集し、分科会、大会式典、基調講演、懇親会という流れで、8時頃には終了という1日日程ですが、開催地によっては、宿泊施設が少なく、日帰りという状況も見受けられました。

## 【参加者の声】

- 札幌開催に固定してはどうか
- 開催地を札幌とし、運営を持ち回りにしてはどうか
- 年1回開催を見直してはどうか
- 地元の飲食店からは好印象を受けている
- 関連企業との共催や学生とのコラボを検討
- カフェスタイルで話す場があるのは良い
- 家族も取り込み開催する
- 式典、基調講演は本当に必要か
- 札幌で大きな会場を抑えるのが難しくなっている
- インバウンドによるホテル代の高騰

2つ目のテーマは『どうする？支部活動』。令和5年10月末現在、34支部あり、うち24支部が会員数100名を下回っています。青年・親会組織、それぞれ独自の活動を行っている支部もあれば、会員の高齢化や新入会員の減少により、青年組織を維持できず、一本化されている支部もあります。

## 【参加者の声】

- 建築にこだわらないクラブ活動の実施
- 行政との連携強化
- 若い人が参加しやすい活動
- 近隣支部との共催
- 大学のボランティア部との連携
- 技能士会などの関係団体との連携
- ZEH勉強会など需要の多いイベントの強化
- 企業の理解を得る（大企業ほど団体活動NGの傾向）
- そもそも仕事が忙しい
- コロナ禍が明けても参加者が元に戻らない

3つ目のテーマは『どうする？会員増』。令和5年10月末現在の会員数は、正会員3,264名、準会員

371名、計3,635名で、減少傾向に歯止めがかからない状況です。当会としても、会員増強特別委員会による出張型の監理技術者講習の開催、青年委員会や女性委員会によるSNSでの情報発信など、広報活動にも力を入れている状況です。

## 【参加者の声】

- 公務員会員の増強（新たな関係の構築）
- 工業高校や専門学校とのつながり
- 会費の若者割、分割払
- お試し入会（1年間会費無料とか）
- 会誌の要・不要で会費を区分する
- 賛助会員、技士会員や外国人会員の増強
- 企業との連携
- 会費が高く、活動も停滞・減少傾向
- 事務局の維持すらままならない
- 会費に見合った活動となっているか

4つ目のテーマは『どうする？労働力不足』。本年4月から、いわゆる「働き方改革関連法」の規定が建設業においても適用され、原則として、月45時間以内、年360時間以内という「時間外労働の上限規制」が運用開始となりました。

## 【参加者の声】

- SNSに溢れているネガティブ情報を正す
- 賃金と休暇を増やす
- 海外労働者の受け入れ
- 設計事務所では労働力不足の実感が希薄
- 若い人が定着しない、メンタル強化が必要
- 建設業のイメージアップ（子ども向け体験イベント）
- 定年を過ぎても働ける環境を周知（技術の優位性）
- 女性労働者が未だ少ない（扶養の壁）
- 現場の省力化、スマホの活用
- 外国人労働力は無理に増やさなくて良い

ひだカフェ終了後、「良かった」という暖かい声をたくさんいただきました。これらの意見が会員で共有される機会が増え、『ミライ』に繋がるのが、日高支部の総意です。

参加者ならびにテーブルマスター・書記としてお手伝いいただいたみなさまに感謝の意を表し、報告に代えさせていただきます。

ありがとうございました!!

## 日高支部

### 日高・ザ・コンパクト

青年委員長

亀田 誠 (日高支部)



フロアディレクターを務めました日高支部青年委員長の亀田です。あらためまして、全道大会日高大会へのご参加、ご協力ありがとうございました。

例年全道大会における式典、基調講演等は市民ホールなど大規模な施設で開催されてきましたが、今大会は新ひだか町公民館・コミュニティセンターといった小さな施設での開催となりました。以前町内には約1,000の客席を有する旧静内文化センターがありましたが、平成15年十勝沖地震により被災、使用不能となり、現在同規模の人数を収容できる施設は町内にありません。そんな中、日高支部が目指したのはコンパクトな大会でした。従来の分科会形式をやめ、ひとつの小さな会場で熱気あふれる「ひだカフェ」の開催や、準備から照明、音響などをほぼ外部へ委託することなく、支部会員の自前による「手作り」での大会運営が特徴的なものとなりました。ちょっとした不手際なども手作りならではの。

日高で開催されたこのコンパクトな大会が、次年度以降に開催を予定される支部のみなさまのご参考となれば幸いです。また、会員が少ないために全道大会開催を躊躇している支部がございましたら「日高でも全道大会を開催することができた」を励みに、開催誘致を検討してみたいはいかがでしょうか。

## 災害対応委員会

### 全道大会ミニ机上訓練を終えて

災害対応委員会 委員長

土田 浩貴 (上富良野支部)



まず初めに日高支部の皆様、事前の準備、当日の運営お疲れ様でした。

今回の全道大会でも災害対応委員会ではミニ机上訓練を実施させて頂きました。ひだカフェの前後等にたくさんの方々にミニ机上訓練を体験して頂き、ありがとうございました。

普段の机上訓練とは違い10分程度で終わるように訓練内容を製作、それとは別に普段の机上訓練で使われるパネルを用意し調査票に記入して、いずれも北海道震災建築物応急危険度判定マニュアルを見ながら訓練を受けて頂きました。

訓練を受けた方の中には「再確認の為」、また「有効期限が切れてしまって今度再受講します。」など言って頂き嬉しく思いました。全道大会でのミニ机上訓練は2018年士別大会から行わせて頂いております。函館で行いました全国大会そして2年間全道大会が開催されなかったのを除いて今回でまだ3回のミニ机上訓練ですが、意外と浸透している委員会事業だと思っています。来年の中標津大会でも少し打ち合わせさせて頂いたのでどこか会場の片隅で実施であればと思っています。今後も継続事業として行えるとありがたいです。

最後に情報提供及び指示をしていただきました日高支部の森さんありがとうございました。

## 基調講演

テーマ：HOKKAIDO PRIDE

～そうだ、北海道がある！

情報委員会 委員長

前田 繁 (釧路支部)



基調講演講師の木本晃氏は帯広生まれ、北大建築工学科卒業、道庁入庁後は建築行政に携わり、現在は北海道科学大学・地域共育副センター長として活躍、北海道と他地域を繋ぐ新幹線、航空路線の誘致等、様々な取り組みを行っており、まさにテーマである北海道の魅力の向上、PRに繋げる役割として、建築家(士)が建築の力をもって日本の美しさを伝えていくことが不可欠、地域の魅力は人々の熱量の大きさであり、彷彿させることである！お話を頂きました。

建築士として、そして建築に携われる者として、些細なことでも接する人々と熱をもったやりとりの積み重ねがさらに重なることで、北海道の向上になりえることを拝聴出来てよかったです。



基調講演 撮影

## 日高支部

### 建築士会YouTuber!?

青年委員

隅谷 耕太朗 (日高支部)



「日高支部です！」でおなじみの北海道建築士会全道大会日高大会公式YouTuberの隅谷です！

今回日高支部では「新しいこと」「全道大会を変える！」そんな目標を掲げてやりました。そんな中で新しい試みとしてYouTubeでの情報発信と大会当日のライブ配信を行いました。昨年2月に「日高支部チャンネル」を開設し、全道大会までショート動画も含めて77本の動画をアップしました。これが多いのか少ないのかわかりませんが、皆さんのおかげでチャンネル登録数も何とか150人までになりました。(これは少ないかも)少なくともやってないより多くの人が日高支部の活動、建築士会の活動を見ることができたと思います。どう思われようが見て知ってもらうのが一番だと思います。そして会員増や若い層の会員増につながればもっと最高です。今年入会した私の高校の後輩でもある高卒のルーキーも編集や取材を楽しそうに手伝ってくれました。(優しく頼みました)

建築士会に関心や興味を持ってもらうのは、どんなきっかけでもいいと思います。でもきっかけをくらないことには何も始まらないです。新しいことをやることは大変ですが、新しいことをやると結構楽しいとYouTubeで感じました。新しい苦労より新しい楽しみ方、新しいモチベーションができました。会費も新しくなりそうですし。

新しい建築士会に向かっていきましょう!!

# 愛されるレンガ建築

女性建築士集い～北海道遺産「江別レンガ」をめぐる～に参加して

女性委員 吉田幸恵(室蘭支部)

秋晴れが気持ちのよい9月初旬、今年的女性建築士の集いのテーマである『江別レンガ』をめぐる…は、北海道博物館よりスタートした。恥を忍んで書き綴ると開拓記念館の方へは何度も足を運んだことがあったが、博物館は初めてだった。駐車場から眺めるとそれほど大きな建築とは感じなかったが、正面から進んでいくと矩形のレンガの建築の迫力と列柱の細さ、高さに圧倒され心が弾んだ。中へ進んでいくとエントランスの天井の高さや北海道の自然を描いた巨大なタペストリーが目に入り自分が小さく感じる。アプローチデッキからロビーの延長には額縁に見立てた北側出入口とガラス窓があり、今はなき記念塔をとらえられたようだ。



タペストリーが印象的な入口

博物館の研究職員の鈴木氏より、古い地図・鳥瞰図を用いた解説は、レンガが野幌丘陵の良質な土・天日乾燥できる広大な土地などの条件や『炭鉄港』の歴史にも触れ大変興味深かった。建築内部を見学しながら、設計者 佐藤武夫のこだわりや想いを75万個のレンガの積み方、アイアングリル、照明器具などを通じて発見した。アプローチデッキには【羽ばたき】という名の彫刻がありその正面に立って、手を叩くと湾曲した両サイドの壁にこだまし、鶴が羽ばたいていく音に聞こえる。多くの方々から【森のちゃれんが】の愛称で親しまれている建築だが、女子中学生より『建築でここまで感動したのは初めてです』と手紙をもらい、佐藤氏は大変感銘を受けたそうだ。解説をしてくれた鈴木氏も建築を専攻しておられたそうで、このレンガ建築への愛着とここで働いている喜びが解説する言葉の端端に感じた。描いたパースが博物館のパンフレットにもなっている。なぜここまで愛されるのかまたじっくり何度でも訪れ、感じてみたい建築だった。後ろ髪ひかれながらランチへ…野鳥やリスも遊



煙突が印象的な米沢レンガ工場

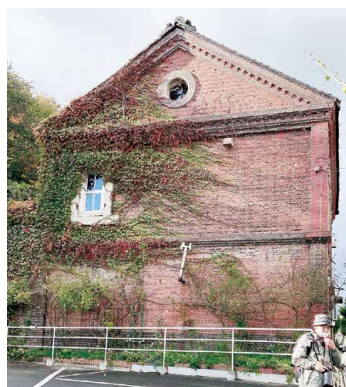
びに来る隠れ家イタリアンレストランでお腹を満たし、米沢レンガ工場の内部見学。

1日当たり最大15000個を製造。道庁赤レンガ庁舎の改修や六花亭、ロイズなどに米沢レンガ製が使用されている。レンガの色も要望に応じて焼き上げるということだった。次に北海道文化財保護協会理事の石垣氏にセラミックアートセンターでレクチャーいただいた。ここは北海道のやきもの文化を創造、発信する施設。新旧のレンガの違いが比較でき、伝統的なレンガ造りが想像できた。



セラミックアートセンター、石垣秀人氏のレクチャー

赤茶色のレンガ建築は北海道の空の色にとってもよく似合う。地元室蘭にもレンガ建築は現存している。旧山口紙店という木骨レンガ造の建築がある。大正12年に建てられたこの倉庫は、紙などの文具・生活用品を扱う店の火事対策として建てられた。壁はイギリス積、付柱はオランダ積で軒蛇腹には鳩胸レンガなどを用いている。レンガの生産地は残念ながら不明。鶯がはってバラの花が咲き誇り、秋には紅葉が。2階建ての決して大きくはないけどレンガ建築は気品があり、人々のあこがれとなっている。



軒蛇腹と丸窓が特徴の旧山口紙店

また日本製鋼所内に明治42年に建設された火力発電所もレンガ造であり日本遺産炭鉄港構成文化財となっている。昭和36年にその役目を終え、現在は多目的施設として利用されている。地元の歴史、北海道の近代化の歴史とは切り離せないレンガ建築は時代を超えてこれからも愛される建築であると思う。と同時にどう活用し後世に残していくことが課題である。蘭歴建見会という市民団体を初めて10数年経った。その間に解体されたレンガ建築もあった。江別市では積極的にレンガでのまちづくりが行われている。では室蘭で自分は何ができるか。まずは最近お休みしていた『歴史的建造物をめぐるまちあるき』を再開し、レンガ建築を知ってもらうことから始めよう。

## 上富良野支部 支部からの情報発信

事務局長  
高松 徹



士会活動の情報発信、どうしていますか？  
皆さんの支部では会員向けの連絡、他の支部や地域などへ向けた士会活動はどのような方法で発信していますか。

上富良野支部では、ブログを開設して支部事業の内容や大会参加などの活動状況を発信しています。

当ブログの発信第1号は2013年の支部総会でした。それ以降、支部事業で実施した観光ロードへの花の植栽、まちの賑わい演出のイルミネーション設置や作品展示などの各種活動を掲載してきました。今年9月の全道大会（日高大会）参加報告が84回目となり、延べ約4,000名の方に閲覧していただきました。閲覧者の大半は支部会員の方々かと思いますが、道士会HPからのリンクなどを通して、他支部の皆さんの目にも触れているのではないかと思います。

さて、このブログでの発信作業ですが、活動した際の画像データを選別し、記事と共にアップロードして公開する手順となります。この作業は、ブログ開設を決めた者の責任と思いが担っていて、未だ他の会員の方へは作業手順の共有をしていません。会計事務処理など業務にはノウハウが必要で、その担当でなければ何もわからないということ…皆さんの支部でもありませんか？そろそろ他の方と共有して順次引き継ぎ、新しい感覚での発信に期待しようと思っています。

活動情報は勿論こちらからの発信だけでなく他支部からの情報発信や支部のHP、個人的に繋がりのある会員のFacebook等のSNSから見させていたでています。皆さんの様々な活動の取り組みを目にしながらも、なかなか当支部の活動へ繋げていくことができず、新しい取り組みには手をつけられていない状況です。

しかし、参考となる活動等の情報はたくさんありますので、これらの情報を取り込み当支部ではどのように活かせるのか考え、今後の活動を含めた支部のあり方を議論していかなければならないと思っています。

↓支部ブログはこちらから御覧ください  
<http://kmfkenchiku.blog.fc2.com/>



支部ブログ

## 北見支部 ビールパーティー復活!!

事務局長  
平塚 純一



北見は昔からビールパーティー文化があり毎年夏から秋にかけて多くの団体などがビールパーティーを行っていましたがコロナ禍ということもあり、令和元年を最後に北見市からビールパーティーがなくなりました。支部でも毎年行っており支部の年間活動収入の3分の1がビールパーティーの収益で賄ってました。ここ数年の収入減により他の事業活動が満足に行うことが出来なかったが、事業内容を縮小しながらなんとかやり繰りしてきました。今年から新たに賛助会員からの会費収入があり事業内容も見直したので5年ぶりにビールパーティーを開催することができました。例年会場として使用していた建物は再開発により使用ができなくなり会場も新たに探すところから始まり、開催しても赤字になってしまうのであればもともこうにも意味がない。さらにコロナ禍前より物価が高騰しておりチケット単価

を500円値上げの2500円にし、チケット販売の予定枚数を例年の半分600枚にして実行しました。5年ぶりということで予定どおりチケットが売れるか心配でしたが、予想より枚数は売れてチケットも増刷するほどでした。当日の入場者はチケット売上枚数の7割以上の方が来ていただき大変盛り上がりました。来年はコロナ禍前と同じような規模で開催したいと思います。



コロナ禍前のビールパーティー

## 道士会の動き

### 本部の主な会議報告 (11月)

- ◆第2回道南ブロック会  
〈開催日〉1日(金)
- ◆第3回青年委員会 (Web)  
〈開催日〉2日(土)
- 1) 令和6年事業報告・決算報告、令和7年事業計画・予算
- 2) 建設産業ふれあい展
- 3) 全道青年委員会連絡会議
- 4) 青年建築士の集い
- 5) 全道大会青年サミット
- ◆第8回BIM推進特別委員会 (Web)  
〈開催日〉6日(水)
- 1) 各事業の進捗
- ◆第2回道央ブロック会  
〈開催日〉8日(金)
- ◆第2回まちづくり委員会 (Web併用)  
〈開催日〉9日(土)
- 1) 次年度事業計画及び予算
- ◆第2回道東ブロック会  
〈開催日〉9日(土)
- ◆第2回災害対応委員会 (Web併用)  
〈開催日〉16日(土)
- 1) 令和6年度事業報告及び決算報告
- 2) ネットワーク登録者増強と整備
- 3) 各自治体と支部の協定締結推進
- 4) 令和7年度事業計画
- 5) 令和6年度反省
- ◆第3回事業委員会  
〈開催日〉30日(土)
- 1) 令和6年事業報告(10月末)及び収支決算見込み
- 2) 令和7年事業計画(案)及び収支予算(案)
- 3) 令和7年新規講習会等の開催に向けての議論

### 本部の主な行事予定 (12月)

- 3日(火) 第5回女性委員会小委員会 (Web)
- 4日(水) 第9回BIM推進特別委員会 (Web併用)
- 7日(土) 第3回情報委員会
- 13日(金) 第5回理事会 (Web)

## 編集後記

前回担当した編集後記で、エスコンフィールドに行くと言ったところですが、今年の夏に家族で野球観戦に行くことができました。球場の雰囲気は素晴らしく、そこまで野球に興味のない子供たちも退屈せずに遊んでいました。あれだけの施設を短期間で実現させる実行力は素晴らしいと思います。私の地元にも新しい施設ができる構想があるので、エスコンのような素晴らしいものになってほしいと感じました。

情報委員会 角張 隆昌 (旭川支部)

## 講習会・セミナーのご案内 (12月)

### 監理技術者講習

11日(水) 札幌市

### 応急危険度判定士認定講習会

4日(水) 旭川市      6日(金) 稚内市  
9日(月) 倶知安町    12日(木) 帯広市

### BIM寺子屋

5日(木) 札幌市

### BIMセミナー

17日(火) 札幌市 (Web)

### CPD認定プログラム(11月認定)

#### ◆do BIM Season8 Final seminar (オンライン)

〈日程〉 12月17日(火) 18:30~20:00  
〈単位数〉 2単位

#### ◆BIM寺子屋 Archicad編

〈日程〉 12月5日(木) 13:00~17:00

〈単位数〉 4単位

〈上記セミナー問合せ先〉

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

#### ◆きらめく夜のゆるさんぽ

〈日程及び会場〉 12月11日(水) 18:30~20:00  
アカブラ他(札幌市)

〈単位数〉 2単位

〈問合せ先〉

(一社)北海道建築士会札幌支部 TEL 011-232-1843

#### ◆令和6年度CLT構造・設計研修会

〈日程及び会場〉 12月3日(火) 10:00~16:15

TKP札幌駅カンファレンスセンター (札幌市)

〈単位数〉 5単位

〈問合せ先〉 株札幌促社 TEL 011-325-5588

#### ◆令和6年度建築・住宅セミナー

〈日程及び会場〉 令和7年2月7日(金) 13:30~15:30

TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前(札幌市)

〈単位数〉 2単位

〈問合せ先〉 (一財)北海道建築指導センター

TEL 011-241-1893

### “会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■12月パスワード：Nay050

情報委員会委員長／前田 繁  
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜  
委員／角張 隆昌・津山 浩  
奈良岡 修

### 北海道建築士 No.328号

印刷 令和6年11月／発行 令和6年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011) 251-6076番  
URL https://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011) 811-7151番